

JICA 国際協力中・高校生エッセイコンテスト 2024 表彰のご案内

～全国 36,202 作品中、札幌日本大学中が佳作【個人賞】を受賞！～
2025 年 3 月 14 日(火)09:50～ 札幌日本大学中学校

国際協力機構（以下、JICA）では、開発途上国の現状や日本との関係について、中学生・高校生の理解を深め、国際社会の中で日本、そして一人ひとりがどのように行動すべきか考えることを目的に本コンテストを毎年開催しており、今回で中学生の部は 29 回、高校生の部は 63 回目となります。今年度のテーマは「未来の地球のために～私たちにできること～」で、中学生の部 16,536 点、高校生の部 19,676 点の応募が寄せられました。環境問題やフードロスといった身近な SDGs の課題に関する作品、また日本国内の課題解決を考え国内で行動を起こし、自分ごとにつなげた作品が多くありました。

この度、札幌日本大学中学校 3 年小川凜子さんの作品が個人賞である佳作を受賞され、卒業式予行で表彰式を行うことになりました。本表彰式は JICA 北海道所長の阿部裕之が出席をいたします。つきましては、ご取材をご検討いただきたく、ご案内申し上げます。

【受賞作品のご紹介】

「隠れたカエルを捕まえて」札幌日本大学中学校 3 年 小川凜子
”カエル愛”を切り口にコーヒー豆の袋にあしらわれている「レインフォレストアライアンス認証」のカエルマークについて考える著者。なぜ、このマークにカエルが使われているのか、家の中には他にもカエルがいるのか。読んだ後に、カエルマーク付きの商品をスーパーで探しに行きたくなる作品。

【開催概要】

開催日時:2025 年 3 月 14 日(金)

開催方法:札幌日本大学中学校(北海道北広島市虹ヶ丘 5 丁目 7-1)卒業式予行にて

- ・9:30～ 担当教員による表彰式の流れの説明
- ・9:40～ 会場へ移動
- ・9:50～ 表彰
- ・エッセイコンテスト表彰が終わり次第、JICA 関係者退出。

※受賞生徒への取材が必要であれば、

予行後(12 時以降)別途時間を設けることが可能。



(写真:他校の 2023 年度本コンテスト表彰式の様子@全校集会)

参考 URL: [国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト](#) | [国際協力について - JICA](#)

別添:受賞作品

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北海道(札幌) 市民参加協力課 桐山
TEL011-866-8421 e-mail: Kiriyama.Asumi@jica.go.jp

【隠れたカエルを捕まえて】 札幌日本大学中学校 三年 小川凜子

「みんな、カエルは好きかー！」

こう言って、「好きだー！」と返してくれる人は何人いるだろうか。もちろん好きな人もいるとは思いますが、どちらかというと苦手という人が多いのではないかなと思う。ちなみに私は家でニホンアマガエルを何年も飼っていて、すっかりカエルの虜である。なのでよく友人にカエルのことを話すのだが、最初の頃は「私カエルあんまり好きじゃないんだよね」の声が多数。しかし、話していくにつれて理解を示してくれた人がほとんどで、いい友達を持ったとつくづく思う。

さて。話がそれたが、つまるところ、私はカエルが大好きである。そんな私に、ある日父がとあるものを見せて来たのだ。

それは、カエルのマークがあしらわれたコーヒー豆の袋。「何でコーヒー豆にカエル？」と思ってきいてみると、「これ、レインフォレストアライアンス認証って言うらしいよ」とさりげなく教えてくれた。何が何だか分からなかったのので後に調べてみると、なぜカエルがマークに選ばれているのかがはっきりとした。

まず、この認証は森林の減少により生物に悪影響が及んでいるのを受け、主に農業から地球環境保護、持続可能な生活を守っていこうという目的で作られた。

そして、認証をもらうには「森林」、「気候」、「人権」、「生活水準」をテーマとし

た 10 の原則を満たさなければならず、この中でも 94 個の詳細があり、とても厳しく審査されている。つまり、父が認証付きのコーヒーを買ったのは、環境に優しい行動をした、ということになるのだ。

そう、環境に優しく。そこで、カエルのことが頭によぎった。何年もカエルと共に暮らしてきたので、彼らの弱点もよく知っていたからだ。まず、カエルは両生類。水陸どちらもなければ生きることができない。森林伐採があっても、気候変動があってもだめだ。それに、水の吸収や皮膚呼吸のために皮膚が薄くなっており、暑さや乾燥、環境汚染物質にとっても弱い。これを言い換えると、カエルがいる場所というのは、良い環境が保たれているということなのだ。「カエルが住み続けていけるような環境を守っていこう」という意味を込めて、マークにカエルを選んだのだろう。ここで私は腑に落ちた。コーヒーとカエル。一見何の関係もなさそうな二者だが、こんなつながりがあったのだ。

さっそくコーヒー以外にもついている商品はないか、まず家族に「カエルのマークを見たことはあるか」ときいてみると、「紅茶（ティーパック）などの飲み物やバナナについているのを見たことがある」という。私は恥ずかしながらコーヒーの件までこの認証を知らなかったのだが、特別なところに行かないと買えないものではない。案外身近なところにカエルたちは潜んでいたのだ。そして、隠れているカエルたちを見つけ出すことができれば、私たち一人一人が地球の

為に歩みを進めていることになるのだ。(1165 文字)